



野外運動研究室ニュースレター

編集：筑波大学野外運動研究室広報係
発行：筑波大学体育科学系野外運動研究室
〒305-8574 つくば市天王台1-1-1
TEL/FAX 029-853-2729

【巻頭言】

君たちは夏をどう生きるか

渡邊 仁 (助教)

新年度が始まり、3ヶ月が過ぎようとしています。新緑が力強さを増し、学内ループの緑のトンネルの美しさに感嘆させられます。ところで日本には、非常にはっきりした春夏秋冬という四季があります。この季節の有り様は、我々にとってはあまりにも自然なことですが、実は世界的にもきわめて珍しいものです。日本人の繊細な感性は、こうした風土から培われるものだと言われ、哲学者和辻哲郎は言っています。しかし現代人は、携帯電話やPCから離れることができず、時に、その類い希な感性を濁らせていないかと感じています。我々は、映画マトリクスのようなバーチャルな世界で生きているのではなく、その実在する自然というリアルな世界で生きていることを再認識しなければなりません。

これから夏本番を迎えようとしています。夏あるいは夏休みは、リアルな体験をたくさんできる野外教育・スポーツにとっても貴重な時期と言えます。論文生は、実践現場の中でデータ収集という現実的な作業をしなければなりません。また論文生以外にとっても、野外教育・スポーツの経験を積む中で実践スキルを鍛える格好の時期であり、と同時に研究テーマを見いだす大切な時間となります。研究テーマは、机の前で考えているだけでは生まれてきません。いずれ取り組まなければならない研究であるならば、テーマ探しとなるこの夏をどう過ごすかは、明文化されない重要課題と位置づける必要があるでしょう。

最後に、先ほどふと自分の頭の中に浮かんだので、今の自分自身に問いかけたいと思い、「君たちはどう生きるか(吉野源三郎著)」に倣ってタイトルを付けてみました。お互い、忘れられない意味ある夏を生きていきましょう。

【授業関連報告】

○実技理論・実習 I (野外運動) デイキャンプ

日比野 功宜 (MC2)



デイキャンプ・テント設置風景

5月30日に体育専門学群2年男子、6月6日に体育専門学群2年女子のデイキャンプが行われた。私自身は6日の方に参加をした。デイキャンプ自体は前日までは雨のようだったが、当日は何とか天気は回復し、いい条件でのキャンプとなった。スタッフ、キャンパー共に充実した日々を過ごすことが出来たように思う。私自身も大学院も2年目となり、思い起こせば昨年度も同じ時期にデイキャンプを行った事を思い出す。今年はTAではなくスタッフとして参加をした。昨年度のことを思い出すと、今年もMC1も充実した日々を送っているのではないかと感じている。部活動等との兼ね合いもあるだろうがキャンプ指導の経験を積むことが出来るいい機会である。UGの学生も是非スタッフとして積極的に参加してもらいたいと思う。

【課外活動関連報告】

○南会津踏査

加藤 拓史 (MC1)

5月2日～4日にかけて、今夏に行われる『発見！冒険！大自然！南会津アドベンチャーキャンプ』の踏査が行われた。今回の踏査では、主にキャンプ地の候補である緑の広場キャンプ場周辺と鳴沼周辺、そして登山予定の七ヶ岳の下見を行った。また、初日の夜には針生地区の方々との交流会もあり、キャンプに向けての意見交換も行われた。

今回の踏査と交流会では、鳴沼の周辺にテントを

張ることになった場合に必要になる水場やトイレの設置についてが一番の課題だったが、地元の方の協力で、少しずつ整備していけるのではないかという方向性が見えてきた。鳴沼のほりは夏場に訪れるととても気持ち良さそうで、鳴沼周辺を拠点にキャンプが行えるようになっていくととても素晴らしい環境になりそうだと感じた。また、七ヶ岳は中腹あたりから上は雪が積もっており、沢も雪解け水とあいにくの雨とで水量がとても多く、本番で登る予定であったルートを歩くことはできなく残念であった。しかし、今回の踏査では南会津をフィールドに調査などを行っている松村先生(体育社会学)と研究室員の方との交流もでき有意義な3日間になった。



護摩滝前にて

○勉強会

佐藤 冬果 (MC1)

室員の野外に関する技術や勉強会運営に関するスキルアップを目的として、野外勉強会、クライミング勉強会をそれぞれ週1度行った。野外勉強会は毎回設定されたテーマに対し、担当者が参加者へレクチャーする形を取り、1学期は①バックカントリー、②ASE・アイスブレイキング、③夏山のセルフレスキュー、④登山スキル、⑤組織キャンプとは(PD論)、⑥トランシーバー、⑦野外料理、⑧チェーンソーをテーマに、勉強会を行った。

担当したテーマについて参加者にレクチャーすることを含めて学び、またそれに参加することで、少しずつスキルアップがされてきている。2学期はさらに内容をレベルアップしていく必要があると思う。そして、1学期は学群生の参加が少なかったため、より多くの室員が参加できるよう運営方法も改善していきたい。



勉強会風景

【学内事業】

○筑友会

久米 あゆみ (MC2)

毎年恒例の筑友会が、本年度は5月23日(水)に野性の森で行われた。野外運動研究室からは久米、清水、日比野、梶田、加藤、佐藤、向後の7人がスタッフとして参加し、また研究室外からも多くの院生の力を借りて、年に1度のパーティーを無事に運営・開催することが出来た。

本年度のテーマは「オリンピックイヤー～世界の料理大集合～」ということで、五大大陸を代表する料理を企画した。アメリカ大陸のBBQ、アジア大陸のカレー、ヨーロッパ大陸のパエリア、アフリカ大陸のクスクスサラダ、オセアニア大陸のフィッシュ&チップスといった、個性豊かな料理が顔をそろえることになった。また、ドリンクコーナーでも世界のお酒をとりそろえ、先生方に振る舞った。さらには深澤先生(体育哲学)から稲庭うどんの差し入れもいただき、日本代表としてメニューを彩ってもらった。

今回のサブテーマとして、ぜひ筑友会を機に先生方にまた1年頑張ってくださいたいとの思いも込めて、「つながるひろがる笑顔の輪」を掲げた。ぜひこの筑友会を通して笑顔が増え、今後の筑波の体育系の発展の一步に少しでもつながっていればと願う。会が終わった後に「よかったよ」との声もいただき、スタッフ一同非常に嬉しく思っている。多くの先生方とお話をさせていただいたり、先生方をおもてなししたりすることを通して、貴重な勉強の時間をいただいた。この経験をまた違う形で生かしていけるように、日々成長していければと思う。

【編集後記】

今回より編集担当がUG4の山川へと移りました。担当の不慣れと不手際で多くのご迷惑をおかけした今回のNLですが、次回以降より良いNLをお届けできるよう頑張ります。

いよいよ訪れる夏休みは卒論、修論の山場になります。お互いに励ましあっていきましょう。

(広報担当：山川 晃)